

観自在

弘長寺寺報
第十五号
平成十九年
八月

緊急課題

(如何に地震への備えを強化していくか)

弘長寺住職 森田裕光

今年三月、能登地震により大本山総持寺祖院の僧堂（坐禅堂）が傾き、全く使えない状態となりました。

また門前の曹洞宗寺院、興禅寺様は全壊いたしました。祖院は何とかなるでしょうが、興禅寺様は再建したくとも、檀家も同時に被災しているのです。そんな余裕はありません。

護持会役員にもお諮りして、弘長寺と護持会から曹洞宗宗務庁を通して能登地震義援金を送らせていただきました。興禅寺様にも別途喜捨させていただきました。

ここまで書いている途中で新たに新潟中越沖地震の情報が入ってまいりました。

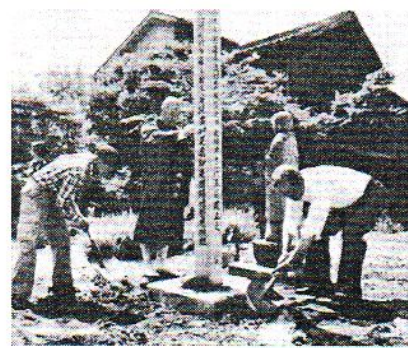
頻発する地震、しかも安全と思われていた想定外の地域や、三年前罹災したのだから当分はないであろうと安心をしていた地域に起こっています。

鳥取西部・島根東部地震の記憶も新しいのですが、（本堂が倒れるのではと思えるほど揺れていた：寺族談）いっどこで地震が起きても不思議ではありません。

弘長寺の本堂は、二百三十年以上も前の古い建物です。

柱は良い材料が使っているのですが、瓦屋根（しかも二重屋根）の重量に比べると十分な太さがなく、基礎は石の上に柱が乗っているだけで震度5以上の揺れが来たらひとたまりもありません。

屋根替えをして約二十年しか経っていないのですが、神戸の震災を期として寺院の瓦屋根に対しての認識が変わりつつあります。特に今回の中越沖地震では、天井の梁が大きく頑丈であっても瓦屋根の古い建物が殆ど全壊しています。



全壊した興禅寺様

寺の跡地に再興を願う塔婆を
建立するご住職と檀信徒



大きく傾いた
大本山総持寺能登祖院僧堂

全国の寺院建築を手がける「カナメ」という会社が、無料で寺院の耐震強度を調査するとの案内に、「無料（ただ）より高いものはない」のではなからうかとの不安もあったのですが、応募しました。

調査の結果、屋根を支える天井裏の梁や柱組みもしっかりしている、また柱は細いけれども良い材料が使っており、上から下まで通し柱が使用されている。（先人の技に感謝です。）

しかし屋根の重さは致命的であり、屋根重量軽減と基礎や四隅の柱の補強は見直すべきであるとの見解が出ました。

五月の護持会地区委員会総会でも早急に対応すべきとの思いで一致し、「修復を重ねれば結果的に高額になる可能性があるから、どうせなら新しく建て替えるべきだ」「いや修理だ」等いろいろな意見が出ておりました。

住職としては、「新しければよし」というものではなく、古き良きものは極力残したいという思いを持っております。

「大修理」「改築」どちらにしても、検討は急を要しますので検討特別委員会（何百年に一度の大事業なので、お檀家様全体から委員を選出したいと思えます。）を今秋にも起ち上げたいと思っております。

お知らせ

お願い

●平成十九年度のお盆の棚経の順は、弘長寺地区の四組から始まります。

弘長寺地区、鏡地区、浜東地区、浜西地区、池田地区、小松地区、中垣地区、内ヶ峠地区、松江方面

朝七時〜夕六時迄八月十三日〜十五日まで三日間、行ける所まで。

十四日は新盆を廻ります。

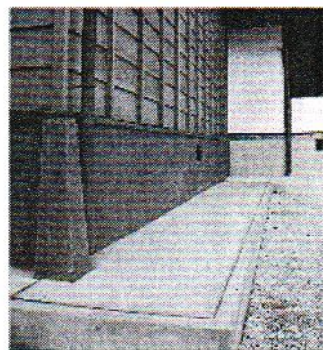
葬儀が発生した場合は葬儀を優先致します。(但し、十四日は葬儀は行いません)

●阿弥陀堂外下壁に化粧石を張り、堂内外とも最終完成しました。

護持会役員にご同意をいただき、外壁窓枠取り付けに続き、最後の心残りでありました阿弥陀堂外側横板壁下のコンクリート地肌むき出しになつていた壁に化粧石を貼らせていただきました。

●ご承知のように庫裡は三十年以上もコンクリート地肌むき出しなものです。これは全く気になりません。しかし大変な宝物であることが判明した阿弥陀様の外下壁がコンクリートでは申し訳ない思いで一杯でした。

上着は礼服を着ながら下は半ズボンで裸足(ハダシ)で立つておられるようなものです。



最終完成した阿弥陀堂

平成十七年の落慶法要までは予算の面で最終完成には至りませんでした。先代々精霊の仏様が安らかに眠りになる位牌堂として、又大変な文化財を安置する立派なお堂として内外観共に最終完成となり、いつ県指定文化財になつても、どなたがおいでになつても胸を張つてお迎えできます。

(現在NHKテレビの《私の一仏》にも応募しています) ※先日ご法事でお詣りになったそのお宅のご親戚の方が、「境内の、特に阿弥陀堂の内外観はともに有り難い雰囲気が出ていて涙が出ました」と語られました。

●二月十八日(日) 布部安養寺から住職檀徒計三十名が来山、阿弥陀堂を拝観され、平等感のある金位牌の配置に感心しておられました。七月九日(月) 出雲市の寺院三名来山、阿弥陀堂を拝観されました。今後は寺院研修等で拝観参拝されるお寺が増えそうです。

●来年度(平成二十年)より新規行事を始めます。多くのお檀家様がお詣りされる大きな行事は八月七日のお施食会だけです。これは先祖供養でございます。

それとは別に大般若祈禱法要を春に設けたいと存じます。

これを先祖供養と違い、大般若を転読する功德力で自らの願いを成す災難滅除・病魔退散の祈禱法要でございます。

お寺様は玉湯町のご寺院様三名と安養寺様にお願ひしようと思つております。

気楽にお詣りいただき、お布施(茶封筒でも結構です)は焼香時に前机のお盆に置いていただければ結構です。

特別なお札を作製し、お渡しいたします。

平成二十年四月二十日(日) 午後二時から厳修いたします。願ひ事のある方、多くの方の参拝をお待ちいたします。

●平成十七年、弘長寺境内にお寺の総廟を作りました。

(寺報十一号掲載)

誤解があるといけません。一度お知らせしておきます。

総廟の前にある由来碑は護持会から喜捨していただきました。個人で負担をさせていただきます。(ほんの少し法人からも出費)

東堂様の年金等の貯えを使わせていただきました。

パロディ

「雨ニモアテズ」

どこかの校長先生作

雨ニモアテズ 風ニモアテズ 雪ニモ 夏ノ暑サニモアテズ

ブヨブヨノ体ニタクサン着コミ 意欲モナク 体力モナク

イルツモブツブツ 不満ヲイッテ 毎日塾ニ追ワレ テレビニ吸イ

ツイテ遊バズ 朝カラアクビヲシ 集会ガアレ

バ貧血ヲオコシ アラユルコトヲ 自分ノタメダ

ケ考エテカエリミズ 作業ハグズグズ 注意散漫スグ

ニアキッシテスグ志レ リッパナ家ノ 自分ノ部屋ニト

ジコモツテイテ 東ニ病人アレバ 医者ガ悪イト

イイ 西ニ疲レタ母アレバ 養老院ニ

行ケトイイ 南ニ死ニソウナ人アレバ 寿命

ダトイイ 北ニケンカヤ訴訟(裁判)ガア

レバ ナガメテカカワラス 日照リノトキハ 冷房ヲツケ

ミンナニ 勉強勉強トイワレ 叱ラレモセズ コワイモノモシ

ラズ コンナ現代ツ子ニダレガシタ 産経新聞より

誌上法話

何のために

法事や先祖供養を するのでしよう

— 第2弾 —

住職

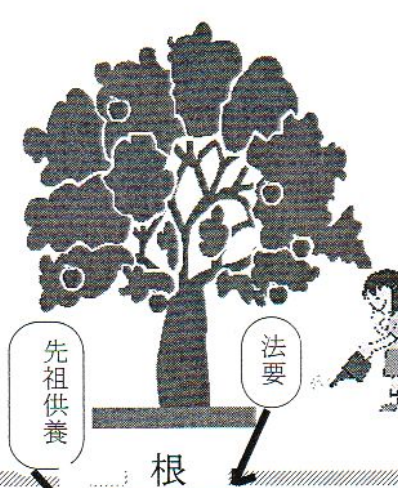
切な法事や先祖供養が何故大
号で解説いたし「観自在」第3
先お寺が先祖供養の修行の機会を逃
すべきでないとだけではよく分
3号の解説は「観自在」第3
から「観自在」といって「観自在」
ささら「観自在」といって「観自在」
います。

「亡くなられた方を追慕する
意味も勿論あります。法
事を自分で行うことによって、
てか、自分が行うことによって、
た、その修行の徳は亡くなつ
た方へ回らされる。追善供
養となる。修行の徳は亡くなつ
自らの修行の徳は亡くなつ
りませう。修行の徳は亡くなつ
ります。

：観自在第3号

私たちが今「何々家」と
して緑青々と木を茂らせ、
花を咲かせ、実を実らせて
います。先祖様や亡くなられた
先亡精霊の方々は見えな

けれども根の部分でしっか
り木（私共）を支えてく
ださっているのです。
その根の部分に肥料や水
（修行の徳）を与えるのが
法事であり、先祖供養なの
です。先祖供養は、先祖供
しつかり肥料や水を与え
ることに「何々家」
の木が強く太くなってい
くのです。



いろいろな因果の要素はあ
ります。先祖供養を基本とし
この木が、自分の代はとも
かく、将来にわたって強く
太くなることは思っています。
ないかと私は思っています。

「死んだ仏さんより生き仏
が大事だ」ということばを
よく耳にいたします。余裕の
ある暮らしをなさっている
のですが、「何々家」の

為には生き仏と等しく死
だ。仏様も大事だ」と思
す。何故なら、間もなくア
と、宿命を持っていかねば
ぬ宿命を持っていかねば
す。つまり根に肥料や水
えると、住む場所を快適に
分の住む場所を快適にする
準備をすることにもなるの
です。

私たちは間もなく
あ、の世で、「何々
家」を懸命に守つ
てこられたご先祖
様や先亡精霊の方々
（両親や祖父母を
含む）にお逢いを
生かすのが、恵まれた世に
いのちをうけて、先祖代々
護をいたして、先づ代々の
お粗末な修行で顔向けが
きなくならないものです。
はしたくないもの（覆水
は盆に返りません）

「因果の道理歴然として私
なし」：修証義
善因（修行の徳を積むこ
と）をつくれれば必ず善果が
ある。この道理が狂うこと
す。と道元禅師様もお示し

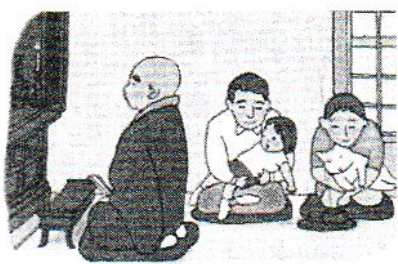
さらに「そんな道理はあ
るはずがない」と仏道修行
や寺院行事を軽視し、我欲
の道に誘惑するような輩に
近寄ってはならぬ、とも示
されていきます。
「因果を知らず業報を明き
らめず、三世を知らず、善
悪を弁まぜざる邪見の覚侶
には群すべからず」：修証義

○他は是我にあらざ
（他人のした修行は自分の修
行にならない）

○更にいずれの時をか待た
ん（今修行しないでいつする
というのだ）

内山興正老師のお言葉が
心に重く響きます。
「やり直しのきかぬ我が人
生、だが、これからの生き
方を変えることはできる」

合掌



法要の達人になりましょう

● 自宅で施主として

まず自分の【何々家】の先祖代々の寂年を書き出して、平成何年には【何々精霊】の何回忌に当たるかを書き出す。(西暦に直すと解りやすい) 当たり年と精霊名を表にする。

戒名	寂年	月	日	西暦	備考	法要年	回忌
天竺星童大和尚	永正12	11	7	1515		2014	500回忌
鹿山榮恩大和尚	元禄13	1	2	1700		2049	350回忌
雲頂祖賢大和尚	延享3	2	11	1746		2045	300回忌
墨峰祖純大和尚	宝暦3	5	17	1753		2002	250回忌
珠山元明大和尚	明和4	7	21	1767		2017	250回忌
東岳祖蘭大和尚	宝暦8	7	28	1758		2007	250回忌
梵應泰普大和尚	文化7	3	10	1810	中興	2009	200回忌
泰山大安大和尚	文化2	4	13	1805		2004	200回忌
玄峰泰開大和尚	文政7	5	13	1824		2023	200回忌
玉岩泰堂大和尚	天保11	2	13	1840		2039	200回忌
櫻林泰梁大和尚	安政3	9	13	1856		2005	150回忌
簗翁泰偉大和尚	明治12	3	26	1880		2029	150回忌
法山泰運大和尚	明治1	6	28	1869		2018	150回忌
巖峰泰仙大和尚	明治4	3	23	1910		2009	100回忌
正宗泰覺大和尚	昭和3	10	20	1928	再中興	2027	100回忌
泰地藤徳大和尚	昭和50	12	16	1975		2007	33回忌

一覽表の例

法要の日程はお寺で一年前から予約可能なので、(来年の法要であれば今年の一月一日より受け付けています)家族と相談し、「来年の何月何日何曜日」が決定したら早めにお寺へ電話で予約する。

※正月にお寺の繰出しを見てから予約すると希望の日が予約済みの場合がありますから

要注意です。

・必ず床の間に祭壇を作り、年回の位牌だけを祭壇に飾ります。

(簡略して仏壇をそのまま祭壇にするのはおやめ下さい)

・祭壇をつくる時には次の点に注意します。

①位牌が最上段の真ん中にくるようにします。

②位牌が二つの時は右側が新しい仏様です。二つ以上ある場合は、新しい年忌の仏様が真ん中で、その次に新しい仏様は向かって右側になります。

一番古い仏様は向かって左側です。

③正式な置茶湯は右に砂糖湯左にお茶です。

④通常果物が右側、お菓子は左側となります。

(反対を主張する方もあります。)

⑤基本的にローソクは右側、花は左側になります。

⑥線香立ては灰を清めておく。線香はカビが生えていたらカビ取りを施したものが、新しく買い換えておく。できれば祭壇と仏壇と両方供える。

ローソクは短いローソクでなく最低一時間は保てるものを準備する。

⑦床の間の掛け軸は神道や他宗教の掛け軸は外し、仏教

の掛け軸にする。掛け軸がない場合はお寺から持参したものをかけます。また、矢筈(やはず)をご用意下さい。

・回し焼香の際には、扇風機は止めておく。(火が飛んで服に穴があく場合があります。)

・仕上げの膳にはあらかじめ名札を置いておく

(施主の席は一番下手) 仕上げの際の施主挨拶は自席や高席からではなく、必ず膳席を離れ、下手へ下がって挨拶をする。

住職へのお礼を先に述べる。親戚の方に、お供え物のお礼を忘れないこと。その日の年回の仏について一言触れると達人です。

・お布施は、基本的には仕上げ(直会)のご飯を出すときに一緒に出します。

● 親戚へ客として

親戚へ到着して家人への挨拶を済ませたら必ず祭壇のお位牌に手を合わせ、線香を一本立て、お詣りをする。(達人はお仏壇へもお詣りします) 読経中は私語は控える。

★ 焼香の達人となる

焼香の仕方は次の通り

①一度合掌礼拝してからお香をつまみ、両手でそのお香を額の辺りまで持ち上げ念じ、火に焚きます。

(本香) 続いて香をつまみ、今度は念じないでそのまま火に焚きます。(従香) ※葬儀など多数が焼香する場合は従香はせず本香のみ。

②本堂での焼香は、必ず焼香の前後に導師(住職)に合掌一礼し、焼香者が多数の場合は、前の人が焼香している時に左隣に進み、まず合掌礼拝をします。

前の人の焼香が終わったら一歩右へずれて真ん中で焼香、焼香が終わったら、その場で礼拝をせず、一歩右へずれて礼拝をするのが達人です。(焼香者が多い時に相当の時間短縮になります。)

③お墓が終わって宅へ帰ったら、必ず祭壇のお位牌に線香を立ててお詣りするのが達人です。 ※次号は「葬儀の達人」特集です。

